

みずほマーケット・トピック(2024年5月31日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

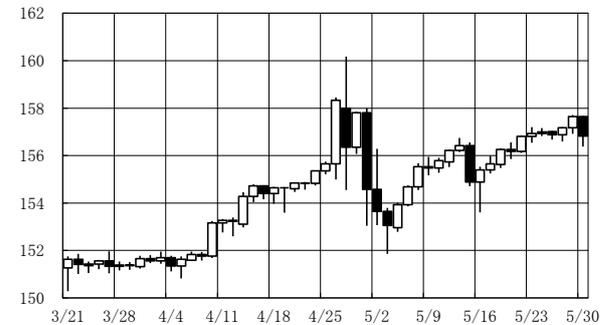
※「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さい。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

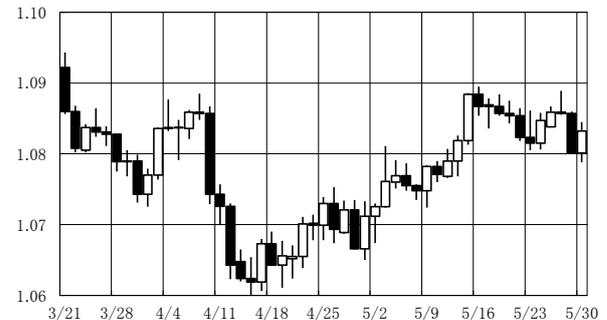
- 今週のドル/円は約1か月ぶりの高値圏まで上昇した後、水準を切り下げた。週初27日、156.84円でオープンしたドル/円は、内田日銀副総裁の発言がタカ派の解釈され、円金利上昇とともに156円台後半でじり安推移。海外時間は、米国休日により市場参加者が少ない中、156円台後半でのみみ合い推移となった。28日、ドル/円は前日の流れを引き継ぎ、156円台後半でレンジ推移。海外時間は、米金利低下と共に156円台半ばまで軟化も、その後米5月コンファレンスボード消費者信頼感の良好な結果を受けて米金利が反発。それにつれる格好で、157円台に乗せた。29日、ドル/円は安達日銀審議委員による発言が想定ほどハト派的では無かったことを受け円金利が上昇し一時157円を割り込むも、米金利の上昇地合いが続く中で直ぐに反発し、157円台を回復した。海外時間は、米金利の一段高に合わせ、約1か月ぶりの高値水準である157.71円まで上伸した。30日、ドル/円は日本株の軟調推移が嫌気され、リスク回避の動きから157円を割り込んだ。海外時間は、米1~3月期GDP(改定値)の冴えない結果に米金利が低下し、一時週安値となる156.36円まで続落した。本日のドル/円は、ドル売りの一服を受け、156円台後半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは1.08台を中心に上下しながらも、方向感に欠ける展開となった。週初27日、1.0847でオープンしたユーロ/ドルは、米国休日で薄商いの中、終日を通し1.08台半ばで方向感なく推移した。28日、ユーロ/ドルは米金利低下が支援材料となり一時週高値の1.0889まで続伸も、その後米経済指標の強い結果や米国債の軟調な入札結果を受け米金利が上昇に転じ、1.08台半ばに反落した。29日、ユーロ/ドルは独5月消費者物価指数(CPI、速報)の強めの結果が材料視され小幅に上昇するも、その後は米金利の高止まりが重しとなり下落、上値重く推移した。30日、ユーロ/ドルはグローバルな株価の軟調推移が嫌気され、一時週安値の1.0789まで続落したものの、その後は米金利低下が支援材料となり1.08台前半に反発した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.08台前半で取引されている。

		前週末	今 週			
		5/24(Fri)	5/27(Mon)	5/28(Tue)	5/29(Wed)	5/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	157.00	156.84	156.83	157.27	157.63
	High	157.15	157.01	157.20	157.71	157.68
	Low	156.83	156.67	156.58	156.92	156.36
	NY 17:00	156.97	156.92	157.20	157.66	156.82
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0811	1.0847	1.0862	1.0851	1.0801
	High	1.0858	1.0867	1.0889	1.0862	1.0845
	Low	1.0806	1.0841	1.0855	1.0800	1.0789
	NY 17:00	1.0846	1.0859	1.0857	1.0802	1.0832
ユーロ/円	東京9:00	169.73	170.16	170.45	170.67	170.18
	High	170.47	170.45	170.77	170.79	170.30
	Low	169.68	169.99	170.31	170.19	169.08
	NY 17:00	170.24	170.36	170.66	170.30	169.87
日経平均株価	38,646.11	38,900.02	38,855.37	38,556.87	38,054.13	
TOPIX	2,742.54	2,766.36	2,768.50	2,741.62	2,726.20	
NYダウ工業株30種平均	39,069.59	-	38,852.86	38,441.54	38,111.48	
NASDAQ	16,920.79	-	17,019.88	16,920.58	16,737.08	
日本10年債	1.01%	1.02%	1.03%	1.08%	1.06%	
米国10年債	4.47%	-	4.55%	4.61%	4.55%	
原油価格(WTI)	77.72	-	79.83	79.23	77.91	
金(NY)	2,334.50	-	2,356.50	2,364.10	2,366.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、7日(金)には5月雇用統計が公表予定となっている。前回4月の結果は、非農業部門雇用者数が+17.5万人(前月比、以下同様)と、3月(修正後:+31.5万人)および市場予想(+24.0万人)を下回った。また、失業率は3.9%となり、市場予想および3月の3.8%を上回った。加えて、平均時給は+0.2%と市場予想および3月の+0.3%から下振れた。4月分の結果は、久しぶりに全体的に弱めの結果が目立った。雇用者数増加は6か月ぶりの低水準であり、平均時給も前年比で確認すれば約3年ぶりの低水準だ。なお、5月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、非農業部門雇用者数を+18.0万人、失業率を3.9%、平均時給を+0.3%と見込んでいる。
- 欧州では、6日(木)にECB政策理事会が開催される。前回4月会合では、5会合連続で政策金利の据え置きを決定。声明文においては、近い将来の利下げを示唆する表現が加えられており、データ次第としつつも利下げ条件として声明文でこれを発信したことは一歩前進だ。ラガルドECB総裁の会見でも、2~3人のメンバーは4月までに入手されたデータをもって利下げへの十分な確信を感じていたことが明らかにされている。その後のECB高官の発言を踏まえても、6月会合での利下げ着手は既定路線だ。市場の注目点は、既に6月以降の利下げペースに集まっており、声明文および総裁会見から情報発信があるかが最重要だろう。

	本 邦	海 外
5月31日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 4月失業率/有効求人倍率 4月鉱工業生産(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏5月消費者物価指数(速報) 米4月個人消費支出デフレーター
6月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 1~3月期設備投資 5月製造業PMI(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏5月製造業PMI(確報) 米5月製造業PMI(確報) 米5月ISM製造業景気指数
4日(火)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 米4月JOLT求人件数
5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 4月毎月勤労統計 5月非製造業PMI(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏5月非製造業PMI(確報) ユーロ圏4月生産者物価指数 米5月非製造業PMI(確報) 米5月ISM非製造業景気指数
6日(木)	—————	<ul style="list-style-type: none"> 独4月製造業受注 ユーロ圏4月小売売上高 ユーロ圏ECB政策理事会 米4月貿易収支
7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 4月家計支出 4月景気動向指数(確報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独4月鉱工業生産 独4月貿易収支 ユーロ圏1~3月期GDP(確報) 米5月雇用統計

【当面の主要行事日程(2024年6月~)】

ECB政策理事会(6月6日、7月18日、9月12日)
 FOMC(6月11~12日、7月30~31日、9月17~18日)
 日銀金融政策決定会合(6月13~14日、7月30~31日、9月19~20日)
 ジャクソンホール経済シンポジウム(8月22~24日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏要約資金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしとら」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分)
	円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資控～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分)
	週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」が「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直投のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「増で売って、事実でも売りに」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～GFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～要約資金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分)
	本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～進む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分)
	「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～